



地域・組合員と共に歩んだ あがらの病院 和歌山生協病院30周年記念まつりに2000人つどう

9/17(土)和歌山生協病院30周年記念事業が病院敷地内で行なわれました。

午前10時～12時まで30周年記念講演として、NPOわかやま環境ネットワーク、県地球温暖化防止活動推進センター代表 重栖隆氏による「原発ゼロ 環境を考える町づくり」について講演しました。午後からは、保健・医療・福祉企画として、リハビリ体操、第2デイケア施設見学、健康チェック・健康相談・介護相談、心肺蘇生法・AED講習などが行なわれました。



午後4時から病院駐車場で、30周年記念まつりがはじまりました。オープニングは、地元紀之川中学校吹奏楽部70名による演奏。ステージでは、生協こども診企画、岡崎支部のみなさんの合唱、南京玉すだれ(年金者組合)、童謡唄う会など歌声など盛りだくさんのステージとなりました。また、駐車場を囲むように28の模擬店が立ち並びました。



和歌山生協病院の30年

1980年12月	和歌山生協病院開設
1981年5月	外科開設
1982年6月	人工透析開設
1987年9月	小児科開設
1988年11月	病床数108床→149床
1993年	病床整備改修工事
1996年5月	訪問看護ステーション「レインボー」開設
9月	和歌山生協病院 在宅介護支援センター開設
1997年3月	病院リフレッシュ工事
7月	リハビリテーション開始
1998年2月	デイケア開設
1999年9月	ヘルパーステーション「協同」開設
2000年	在宅総合ケアセンター開設(支援センター・レインボー・協同)
5月	生協こども診療所開設
7月	西別館完成
2003年4月	生協病院附属診療所開設 オーダリングシステム稼働
11月	管理型臨床研修指定病院認定
12月	増築・全面改修リニューアル完成
	回復期リハビリテーション病棟開設(48床)
2005年2月	日本医療機能評価機構・病院機能評価認定
2006年7月	認知症対応型デイビス「よりあい」開設
2007年5月	生協病院耐震改修工事
2008年9月	亜急性期病床(8床)設置
2010年2月	日本医療機能評価機構・病院機能評価更新認定
2010年12月	第2次リニューアル完成・電子カルテ稼働
2011年9月	無料及び低額診療事業開始

台風による河川氾濫の被害甚大・・・衣食住の確保は切実

9月19日、和教組の呼びかけによる台風12号被災者救援ボランティアに参加してきました。この日は、古座川町ボランティアセンターに登録しての活動で、9名が参加(和教組関係者6名と佐藤医労連事務局長、民医労・丸山、医療生協・田畑の9名)、古座川流域一雨(いちぶり)という地域にお住まいの方の、民家の内外の泥片付けや床洗い、水に浸かった家財道具の洗浄等の仕事をしました(午前11時～午後3時過ぎまで)。

ここのお宅は高齢の夫婦二人暮らし、河川の氾濫で平屋建ての家が床上浸水したため、住む場所がありません。家の前にキャンピングカーをとめて寝泊りされていました。台風から2週間経つと言うのに、家の中は空洞状態、被災以前の生活にいつもどれるのか、まったく見通せない状況です。地域では高齢者世帯が多いでしょうし、自助は絶対無理、「共助」も広い地域からのボランティアが入らないと成り立たないでしょう。本当にどうして復旧していくのか、国や自治体はどんな方針をもっているのか、仕事としてやっていただく部隊とともに大規模なボランティアを連日つくらないと、復旧の見通しはとてできないのではと思われました。

当日は、他府県ナンバーの車や岩出市、かつらぎ町などの車がみられ、次々ボランティア参加登録手続きをしたあと、機材を車に積んで出発していました。9月23日、24日には県地評がボランティアを呼びかけ(田辺地域へのボランティア)、民医労の青年職員も参加予定とのこと。津波の破壊力とは違った様相ですが、被災地域の方の衣食住の確保、電気・水道等ライフラインの完全復旧を願います(ボランティア作業中に停電もありました)。 (田畑記)

